

教科・科目	家庭・家庭基礎	単位数	2（前期又は後期）		
		ライン	1	開講期	前期又は後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：家庭基礎				

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）

### 2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

### 3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1部 家族・社会との共生 第2部 生活の自立 第3部 生活の創造	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第1部 家族・社会との共生 第2部 生活の自立 第3部 生活の創造	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

### 4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	選択した時期（前期又は後期）に、4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	選択した時期（前期又は後期）に、1回～6回のすべてに合格すること。	
試験	選択した時期（前期又は後期）に、1回合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生		登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S
前期	① 第1部 家族・社会との共生 生涯を見通す 人生をつくる	前1	1	2	4/20	4/21	—	4/17	
	3		4						
	② 第1部 家族・社会との共生 子どもと共に育つ	前2	1	2	5/11	5/12	—	5/8	
	3		4						
	③ 第1部 家族・社会との共生 超高齢社会を共に生きる 共に生き、共に支える	前3	1	2	5/25	5/26	—	5/22	
	3		4						
	④ 第2部 生活の自立 食生活をつくる	前4	1	2	6/8	6/9	—	6/5	
	3		4						
⑤ 第2部 生活の自立 衣生活をつくる	前5	1	2	6/22	6/23	—	6/19		
3		4							
⑥ 第2部 生活の自立 住生活をつくる	前6	1	2	7/6	7/7	—	7/3		
3		4							
⑦ 第2部 生活の自立 経済生活を営む 第3部 生活の創造	前6			7/20	7/14	—	7/17		
3		4							
試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/17	8/18	—	8/21	
後期	⑧ 第1部 家族・社会との共生 生涯を見通す 人生をつくる	後1	1	2	10/12	10/20	—	10/9	
	3		4						
	⑨ 第1部 家族・社会との共生 子どもと共に育つ	後2	1	2	10/26	10/27	—	10/23	
	3		4						
	⑩ 第1部 家族・社会との共生 超高齢社会を共に生きる 共に生き、共に支える	後3	1	2	11/9	11/10	—	11/13	
	3		4						
	⑪ 第2部 生活の自立 食生活をつくる	後4	1	2	11/23	11/17	—	11/20	
	3		4						
⑫ 第2部 生活の自立 衣生活をつくる	後5	1	2	12/7	12/8	—	12/4		
3		4							
⑬ 第2部 生活の自立 住生活をつくる	後6	1	2	12/21	12/22	—	12/18		
3		4							
⑭ 第2部 生活の自立 経済生活を営む 第3部 生活の創造	後6			1/11	1/19	—	1/8		
3		4							
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	1/25	1/26	—	1/22	

## 6 先生からのメッセージ

家庭科の強みは学びを実生活で実践できることです。家庭基礎では、衣食住、人生、家族、保育、超高齢社会、経済生活など、みなさんの実生活に直結する内容を多く取り扱います。知識や技能を身に付けることはもちろん、自分の生活を振り返り、課題を考察することで、新しい価値観や行動を生み出せるよう、視野を広げて考えていきましょう。

教科・科目	家庭・カラーライフデザイン	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	4	開講期	前期と後期
備考					

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 生活に関わる色彩について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 実生活から色彩に関する課題を発見し、生活の質の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 生活の質の充実向上を目指して自ら学び、色彩のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
使用教科書 副教材等	色彩検定®公式テキスト 3級編（色彩検定協会）

### 2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生活に関わる色彩について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	実生活から色彩に関する課題を発見し、生活の質の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に課題を解決する力を身に付けている。	生活の質の充実向上を目指して自ら学び、色彩のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

### 3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	色のはたらき 光と色 色の表示（表色系） 色彩心理	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	色彩調和 食事と色彩 配色イメージ ファッション インテリア	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

### 4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期4回以上、後期4回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期1回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前1回～前4回、後1回～後4回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生		登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S
前期	① 色のはたらき 光と色①	前1	1	2	4/20	—	4/22	4/17	
	3		4						
	② 光と色②	前2	1	2	5/11	—	5/13	5/8	
	3		4						
	③	この回は、実施されません。							
	④ 色と表示①	前3	1	2	6/8	—	6/10	6/5	
	3		4						
	⑤ 色と表示②	前3	1	2	6/22	—	6/24	6/19	
	3		4						
	⑥ 色彩心理①	前4	1	2	7/6	—	7/8	7/3	
3	4								
⑦ 色彩心理②	前4	1	2	7/20	—	7/22	7/17		
3		4							
試験	レポート前1～前4の内容		本試験	追再試	8/17	—	8/19	8/21	
後期	⑧ 色彩調和	後1	1	2	10/12	—	10/14	10/9	
	3		4						
	⑨ 食事と色彩	後2	1	2	10/26	—	10/28	10/23	
	3		4						
	⑩ ファッション①	後3	1	2	11/9	—	11/11	11/13	
	3		4						
	⑪ ファッション② 配色イメージ	後3	1	2	11/23	—	11/25	11/20	
	3		4						
	⑫	この回は、実施されません。							
	⑬ インテリア①	後4	1	2	12/21	—	12/23	12/18	
3	4								
⑭ インテリア②	後4	1	2	1/11	—	1/13	1/8		
3		4							
試験	レポート後1～後4の内容		本試験	追再試	1/25	—	1/27	1/22	

## 6 先生からのメッセージ

スクーリングでは、カラーコーディネイトの基礎（色彩検定3級程度）を身に付けるための学習を行い、色鉛筆などで配色演習を行います。できるだけ毎回スクーリングに参加し、色彩に関する知識と表現力を身に付けましょう。（※色彩検定は本校では実施していないため、希望者は各自で受験してください。）

教科・科目	家庭・保育基礎	単位数	2（前期）		
		ライン	4	開講期	前期
備考					

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>(2) 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付ける。</p> <p>(3) 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	保育基礎（実教出版）

### 2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価点	前期 50 点	前期 50 点	前期 50 点

### 3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1章 子どもの保育 2章 子どもの発達 3章 子どもの生活 4章 子どもの文化 5章 子どもの福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・試験</li> <li>・作品製作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・試験</li> <li>・作品製作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・試験</li> <li>・作品製作</li> </ul>
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期				
評価点				

### 4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	4 回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	1 回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前 1 回～前 6 回のすべてに合格すること。	
試験	前期 1 回に合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生		登録		
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S	
前期	① 1章 子どもの保育	前1	1		2	4/20	—	4/22	4/24	
	3			4						
	② 2章 子どもの発達①	前2	1		2	5/11	—	5/13	5/15	
	3			4						
	③	この回は、実施されません。								
	④ 2章 子どもの発達②	前3	1		2	6/8	—	6/10	6/12	
	3			4						
⑤ 3章 子どもの生活	前4	1		2	6/22	—	6/24	6/26		
3			4							
⑥ 4章 子どもの文化	前5	1		2	7/6	—	7/8	7/10		
3			4							
⑦ 5章 子どもの福祉	前6	1		2	7/20	—	7/22	7/24		
3			4							
試験	レポート前1～前6の内容		本試験		追再試		8/24	—	8/26	8/28
後期	⑧		1		2					
			3		4					
	⑨		1		2					
			3		4					
	⑩		1		2					
			3		4					
	⑪		1		2					
			3		4					
	⑫		1		2					
			3		4					
	⑬		1		2					
			3		4					
	⑭		1		2					
			3		4					
試験			本試験		追再試					

## 6 先生からのメッセージ

保育基礎では、保育の意義や子どもの心身の発達、子どもの生活、福祉など子どもに関する分野を幅広く学習していきます。作品製作も行いますので、積極的に取り組む姿勢が求められます。また、受講には実習費がかかります（欠席しても返金できません）。

教科・科目	家庭・服飾手芸	単位数	2（後期）		
		ライン	4	開講期	後期
備考					

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>(2) 手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付ける。</p> <p>(3) 手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	一生使えるおさいほうの基本（主婦の友社）

### 2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価点	後期 50 点	後期 50 点	後期 50 点

### 3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期				
	評価点			
後期	裁縫の基本 基礎縫い練習 作品製作 各種手芸の技法	レポート 作品製作 試験	レポート 作品製作 試験	レポート 作品製作 試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

### 4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	4 回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	1 回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	後 1 回～後 4 回のすべてに合格すること。	
試験	後期 1 回に合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者		先生		登録			
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S
前期	①	1	2						
		3	4						
	②	1	2						
		3	4						
	③	1	2						
		3	4						
	④	1	2						
		3	4						
⑤	1	2							
	3	4							
⑥	1	2							
	3	4							
⑦	1	2							
	3	4							
試験		本試験	追再試						
後期	⑧ 裁縫の基本 基礎縫い練習	後1	1	2		10/12	—	10/14	10/16
		3	4						
	⑨ 各種手芸の技法① 作品製作	後2	1	2		10/26	—	10/28	10/30
		3	4						
	⑩ 各種手芸の技法② 作品製作	後3	1	2		11/9	—	11/11	11/6
			3	4					
	⑪ 各種手芸の技法③ 作品製作	後3	1	2		11/23	—	11/25	11/27
			3	4					
⑫	この回は、実施されません。								
⑬ 各種手芸の技法④ 作品製作	後4	1	2		12/21	—	12/23	12/25	
		3	4						
⑭ 各種手芸の技法⑤ 作品製作	後4	1	2		1/11	—	1/13	1/15	
		3	4						
試験	レポート後1～後4の内容	本試験	追再試		2/1	—	2/3	1/29	

## 6 先生からのメッセージ

- スクーリングでは、針やはさみを使用し、作品製作を中心に行いますので、次の2点に注意してください。
- ①材料を持ち帰っての製作はできません。指定した期限内に提出できるよう、スクーリングは休まず出席してください。
  - ②受講には実習費がかかります（欠席しても返金できません）。

教科・科目	家庭・フードデザイン	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	3	開講期	前期と後期
備考					

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を身に付ける。</p> <p>(2) 多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造し、課題を解決する力を身に付ける。</p> <p>(3) 健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ち、食生活を総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、食育の推進に他と協働して取り組む態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	フードデザイン（実教出版）

### 2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を身に付けている。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造し、課題を解決する力を身に付けている。	健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ち、食生活を総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、食育の推進に他と協働して取り組む態度を身に付けている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

### 3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	食生活と健康 栄養素のはたらき フードデザイン実習 食品の衛生と安全 食事計画	・レポート ・実習 ・試験	・レポート ・実習 ・試験	・レポート ・実習 ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	食品の特徴と性質 食品の選択と表示 料理様式とテーブルコーディネート フードデザイン実習 持続可能な開発と食生活 食育	・レポート ・実習 ・試験	・レポート ・実習 ・試験	・レポート ・実習 ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

### 4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期 4 回以上、後期 4 回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	各期 1 回までスクーリング回数に含めることができる。
レポート	前 1 回～前 6 回、後 1 回～後 6 回のすべてに合格すること。	
試験	前期 1 回、後期 1 回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生		登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S
前期	① 食生活と健康①	前1	1	2	4/20	—	4/22	4/17	
	3		4						
	② 栄養素のはたらき①	前2	1	2	5/11	—	5/13	5/8	
	3		4						
	③ 栄養素のはたらき②	前3	1	2	5/25	—	5/27	5/22	
	3		4						
	④ 調理の基本 フードデザイン実習①	前4	1	2	6/8	—	6/10	6/5	
			3	4					
⑤				6/22	—	6/24	6/19		
⑥ 栄養素のはたらき③	前5	1	2	7/6	—	7/8	7/3		
3		4							
⑦ 食事計画	前6	1	2	7/20	—	7/22	7/17		
3		4							
試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/17	—	8/19	8/21	
後期	⑧ 食品の特徴・表示・安全①	後1	1	2	10/12	—	10/14	10/9	
	3		4						
	⑨ 食品の特徴・表示・安全②	後2	1	2	10/26	—	10/28	10/23	
	3		4						
	⑩ 料理様式とテーブルコーディネート	後3	1	2	11/9	—	11/11	11/13	
	3		4						
	⑪ 調理の基本 フードデザイン実習②	後4	1	2	11/23	—	11/25	11/20	
			3	4					
⑫				12/7	—	12/9	12/4		
⑬ 食生活と健康②	後5	1	2	12/21	—	12/23	12/18		
3		4							
⑭ 食育	後6	1	2	1/11	—	1/13	1/8		
3		4							
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	1/25	—	1/27	1/22	

## 6 先生からのメッセージ

実験・実習を行うため、積極的な取組が求められます。実習①は、スクーリング④・⑤の日程のうちいずれかに出席し、実習②は、スクーリング⑪・⑫のうちいずれかに出席してください。調理実習時には、エプロン・三角巾を持参してください。受講には実習費がかかります（欠席しても返金できません）。